

「一揆の風景を求めて」

明治2(1869)年、三田に大規模な一揆が発生しました。

この頃は265年間続いた江戸幕府がたおれ、武士団による領民支配の構造が大きく転換されようとした時期でした。また三田藩では福沢諭吉の影響のもと、九鬼隆義や白洲退蔵、小寺泰次郎らが急進的な政策を実施していましたが、一揆勢らの要求の中には年貢の減免とともに、三田藩の急進的な政策に対する反発がありました。一揆が発生した理由については現在諸説がありますが、明治二年三田藩一揆は、幕末維新时期の三田藩政の特質やその実態をあらわす出来事の一つといえます。

そして今回は「三田市史」第6巻(近代資料編II)に掲載した史料(三田地区朝野氏所蔵「日和附諸相場附諸事聞書控」)をもとに、一揆の風景をもとめて市内各所を写真でまわります。

当然のことながら、一揆の頃の風景はもうありません。しかし風景が変わっていれるほど、私たちの住む現在がその時々の人々の営為の積み重ねであることを、風景を通じて実感頂けると思います。風景をたどる理由の一つはそこにあります。

なお明治二年三田藩一揆については、新出のものも含めて、「三田市史」第6巻(近代資料編II)に網羅的に資料を掲載しております。あわせてご参照ください。

それではさっそく出かけましょうか？



諸事風聞記(三田地区朝野氏所蔵)

三田郷騷

「三田郷騷」の文字
(「日和附諸相場附諸事聞書控」より)